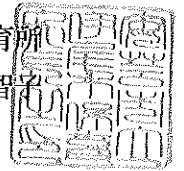


安芸市福祉事務所
 所長 山崎美佳 様

安芸市立伊尾木保育所
 所長 岡林佐智子



令和2年度 伊尾木保育所園評価報告書

1 保育所における自己評価の記録

月	自己評価	月	自己評価
4月	○園経営計画の作成 ○本年度の重点目標の設定（園評価） ○園評価の項目・指標の設定 ○職員への園経営計画・園評価の説明と理解	11月～ 12月	○保護者へのアンケートの実施
6月	○保護者へ園評価の説明	1月	○アンケートの集計・分析 ○最終評価の実施
8月	中間評価の実施（職員の自己評価・園の自己評価）	2月	○保護者へ園評価結果の報告 ○設置者への報告・改善策の検討
9月	○設定者への中間評価報告・改善策の検討		

2 評価結果

○総括的な自己評価結果について

<成果>

① 保育・教育活動の充実

園評価のアンケートでは、遊びの工夫を通して子どもたちが積極的に身体を使ったり、いろいろなことに興味を持ち意欲的になったこと、あたたかい雰囲気の中で友達と仲良く過ごすことができているという意見がだされた。

② 職員の育成・資質向上や運営

それぞれが担当した業務において、自分の役割に自覚を持ち取り組んだ。

分からない点や困ったことがあると先輩の保育者に相談できる職場内の環境ができてきた。

③ 地域に開かれた園づくり

昨年に引き続き小学校教諭の保育所訪問を実施し、子ども達の日頃の活動（遊び・生活等）を見てもらい情報交換ができた。

<課題・主な改善策>

① 保育・教育活動の充実

園評価アンケートでは、『家庭であまり絵本を読んでいない』が31%あった。

保育所では、毎日の絵本の読み聞かせや、週一度の絵本の貸し出しを行なっている。今後は各クラス定期的に絵本を紹介する等、保護者も絵本への興味が深まる取り組みを工夫していく。

② 職員の育成・資質向上や運営

ひとりひとりが企画やアイデアを出し合い、子どもの気持ちが高まる保育実践を目指していく。

③ 地域に開かれた園づくり

小学校との交流において、よりよい連携ができるようにねらいを明確にした交流をしていく。

園評価

(伊尾木保育所)

経営の柱	今年度の重点目標	評価項目	評価指標と評価結果				分析・考察
			取組指標	結果	成果指標	結果	
☆保育・教育活動の充実	身近な環境と関わる中で豊かな心と丈夫な身体を育てる	【安全管理】安全点検や保育者・幼児の安全対応能力の向上を図るため取り組む	4 保護者や地域の方と共に訓練をする	2	4 積極的に訓練に取り組む 75%以上	3.5	・火事・地震や水害など様々な想定のもと、訓練を行なった。計画を積極的に取り組むことで非常ベルへの反応や避難体制がスムーズになった。 ・災害用伝言ダイヤルを活用し、散歩先での訓練を行った。複数回経験することで保育者も手順に慣れてきた。 ・子ども達は、訓練を行うことでサイレンや合図にも敏感に反応し、身を守ることに意識もついてきている。
		3 災害用伝言ダイヤルに取り組む	3 積極的に訓練に取り組む 50%以上				
2 月に1回以上避難訓練をする	2 積極的に訓練に取り組む 30%以上						
1 2ヶ月に1回遊具の点検をする	1 積極的に訓練に取り組む 30%未満						
		【指導計画】保育の記録と振り返り	4 記録をもとに職員会などで報告・情報提供をし保育に生かす	4	4 記録と振り返りができ、保育に生かした職員 90%以上	4	・月間指導計画を作成し、毎月の保育を振り返りながら、反省・手だてを分析し翌月の保育実践に活かしている。 ・職員会だけでなく話す機会をもち、いつでも気が付いたことは、職員間で共有し実践に繋げている。
	3 気が付いたことを各自が記録する	3 75%以上					
	2 記録の取り方を工夫する	2 50%以上					
	1 振り返りや記録をとる時間を確保する	1 50%未満					
◆職員の育成・資質向上や運営	共通課題に向かう職員の協力体制づくり	【園務分掌】園務分掌とその内容を理解し、企画・立案する	4 担当分掌を責任もって遂行するとともに、新たなアイデアをもって改善や提言をする	3	4 園運営上の課題解決に向け、園務分掌等の取組に積極的に参画するようになった	3	・子どもの状態や職員体制を考慮し、行事に向けて計画を立てている。 ・活動のねらいやポイントを論議し、よりよい取り組みとなるように全職員で確認している。
		3 担当分掌を責任もって企画・立案する	3 園の運営について自分のこととして常に考え、職員会等においても建設的な発言が出来るようになった				
2 担当した業務について振り返り、不十分な点を改善したり、職員会等で報告したりする	2 担当した業務について振り返り、不十分な点を改善したり、職員会等で報告したりする						
1 担当した業務について理解し遂行する	1 自分の役割を自覚できるようになった						
		【情報提供】園に関する様々な情報を発信する	4 保護者にアンケートを出し、振り返りを行い改善する	3	4 アンケートをうけ、日頃の保育の足りない点を見直し保育の改善に努める	4	・お便りでは、日々の子どもの様子を伝えると共に、保育内容や行事のねらいを保護者が読む気持ちになるように校正や内容を工夫した。 ・送迎時にその日の子どもの様子等伝え、保護者と共有している。話す機会が少ない保護者には、メモ書き等で様子を伝えるようにしている。 ・アンケートの結果から、全職員で課題を明らかにし、今後の保育実践や保育運営の改善していく。(絵本の読み聞かせや基本的な生活習慣について今後重点的にとりこんでいく。)
	3 行事便りを発行する	3 目標や目的を明らかにし、行事の中で育つ子どもたちの姿(写真等も交え)を伝える					
	2 園・クラス便りを発行する	2 保育計画と子どもの姿を照らし合わせ、活動のねらいや内容、育ちや学びを伝える(写真等も交え)					
	1 保育内容を話す	1 子どもの姿を伝え又、保護者に寄り添い信頼関係をつくる					
◎地域に開かれた園づくり	保護者や地域に開かれた園づくり	【保護者との連携】子ども達の姿や保育への理解を深める機会をつくる	4 必要に応じて、家庭訪問や面談を行う	3	4 子育ての相談をしてくれる保護者 75%以上	3	・個別に面談を行い子どもの姿を丁寧に伝えてきた。 ・保護者からの相談に寄り添いながら、的確にこたえられるようにした。これからも保護者が相談しようと思える関係づくりを目指す。
		3 子どもの様子や子育てについて、連携・共有できる機会を設ける	3 50%以上				
2 保育の情報を分かりやすく発信する(園だより・クラスだより)	2 35%以上						
1 登降所時に子どもを中心とした話をする	1 35%未満						
		【小学校との連携】就学に向けて相互理解のもと子どもの育ちをつなげる	4 保小連絡会で、子どもの発達や学びの芽生えを意識した年間指導計画を作成し情報を共有する	3	4 お互いの学びを自分の保育に意識して取り組んだ保育者 90%以上	3	・小学校を訪問したり、保育所に来てもらい日々の子ども達の活動(宣伝・遊び)や生活(食事)を見てもらい情報交換している。 ・小学校との交流において、よりよい連携ができるようにねらいを明確にした交流をしていく。 ・就学前の引継ぎシートを作成し、スムーズな引継ぎを行っていく。
	3 保育所訪問や、日頃の保育生活・遊びを通して情報交換をする	3 75%以上					
	2 行事に参加し園児・児童の交流を図る	2 50%以上					
	1 園だよりや給食便りで日頃の保育生活や遊びを情報を発信する	1 50%未満					